

東北地方 3か月予報 (平成24年8月～10月)

平成24年7月25日発表 仙台管区気象台

月別の予想

8月：太平洋高気圧の日本付近への張り出しは平年よりやや強い。周期的に気圧の谷の影響を受けるが、太平洋高気圧におおわれる時期もある。東北日本海側では平年と同様に晴れの日が多く、東北太平洋側では天気は数日の周期で変わる見込み。

9月：日本の南東海上で太平洋高気圧が平年より強い一方、亜熱帯ジェット気流が平年より南を流れるため寒気の影響を受ける時期もあることから、秋雨前線は日本付近でやや活発と見込む。低気圧と高気圧が交互に通り、天気は数日の周期で変わるが、東北太平洋側では平年と同様に曇りや雨の日が多い見込み。

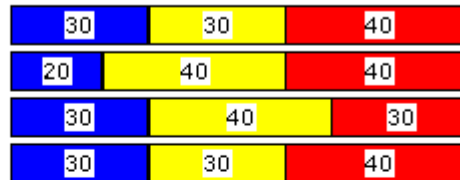
10月：低気圧と高気圧が交互に通り、天気は数日の周期で変わる見込み。

向こう3か月の気温、降水量の各階級の確率 (%)

【気温】

[東北地方]

3か月



8月

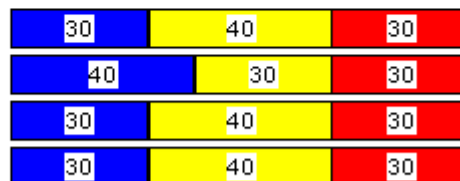
9月

10月

【降水量】

[東北地方]

3か月



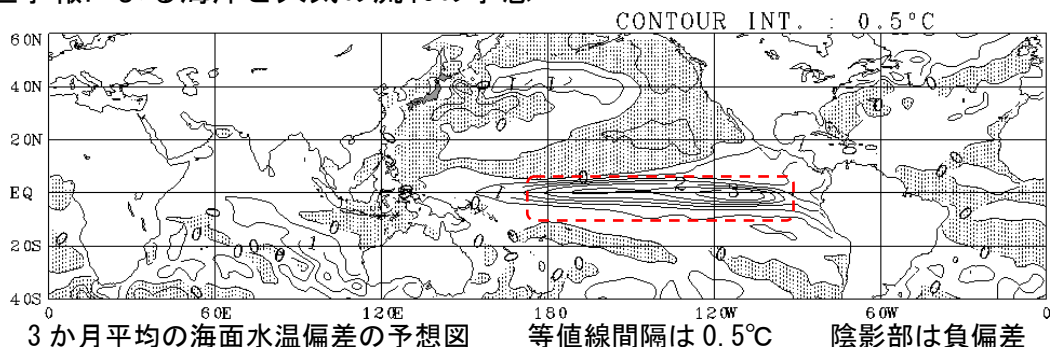
8月

9月

10月

凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

数値予報による海洋と大気の流れの予想

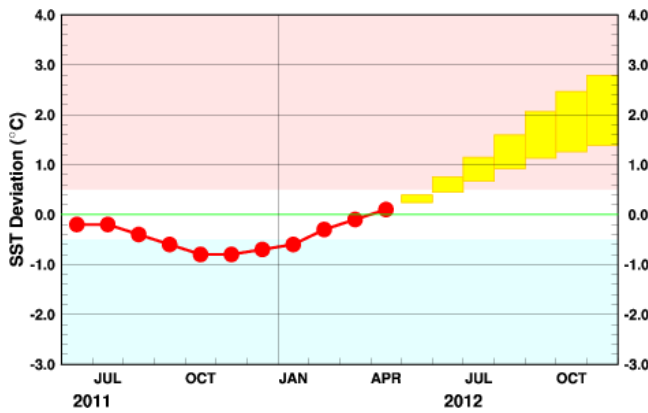


太平洋中部から東部の赤道域で明瞭な正偏差となり、エルニーニョ現象が発生する可能性が高くなったが、今後も平常の状態が続く可能性もあり、偏差の程度は割り引いて考える。日本付近の大気は9月以降にエルニーニョ現象の影響を受けるようになると思われる。

日本付近では9月以降、亜熱帯ジェット気流が平年より南を流れる見込み。一方、フィリピンの東では対流活動が活発な状態が続き、8月から9月は日本付近への太平洋高気圧の張り出しが強まる見込み。東北地方ではおおむね平年程度の天候を見込むが、8月から9月は太平洋高気圧におおわれやすい一方で、9月は寒気の影響も受けやすいと見る。

エルニーニョ監視速報（気象庁地球環境・海洋部 平成 24 年 7 月 10 日）

- ・エルニーニョ現象もラニーニャ現象も発生していない平常の状態が続いている。
- ・夏の間エルニーニョ現象が発生する可能性が高い。

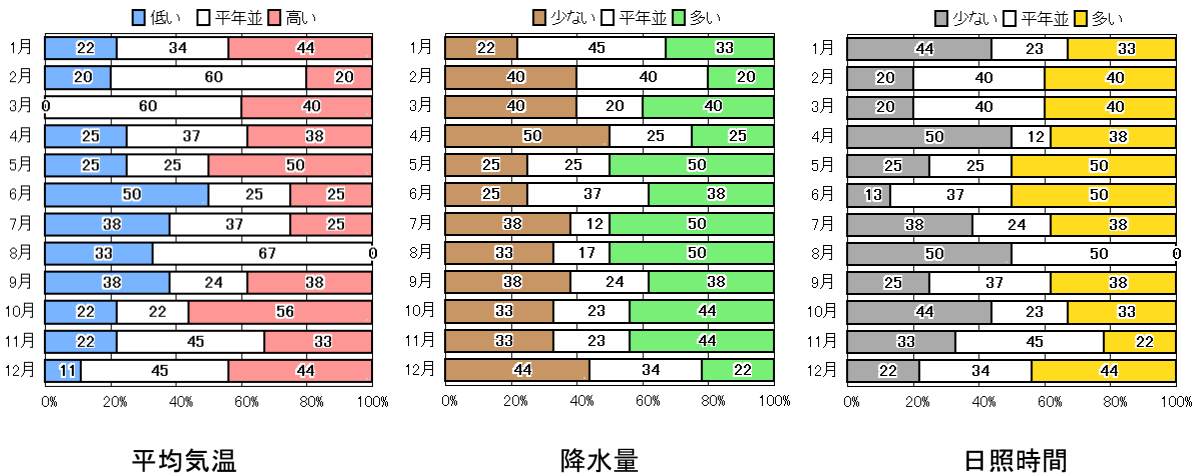


エルニーニョ／ラニーニャ現象の経過と予測

左の図は、エルニーニョ監視海域の海面水温の基準値との差の5か月移動平均値（指数）の推移を示す。4月までの経過（観測値）を折れ線グラフで、エルニーニョ予測モデルによる予測結果（70%の確率で入ると予想される範囲）をボックスで示している。指数が赤／青の範囲に入っている期間がエルニーニョ／ラニーニャ現象の発生期間である。

エルニーニョ現象発生時の東北地方の天候（平均気温、降水量、日照時間）の出現傾向

- 平均気温 1、3、5、10、12月に高い傾向。 6月に低い傾向。
 降水量 4、12月に少ない傾向。 5月に多い傾向。
 日照時間 5、6、12月に多い傾向。 8月に少ない傾向。



平均気温

降水量

日照時間